

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
居住環境特別演習	木下 誠一	演習	4		1, 2, 3, 4	3, 4	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	住宅、集合住宅、地域施設に関するテーマを設定し、調査分析により現状と課題を把握した上で、より良い生活空間のあり方についての考えを設計作品又は論文にまとめる。研究は、個人または3名以内のグループ単位で行う。実際に現地調査を行うなど、座学では得られない体験を通して理解を深めることが大切であると考えている。						
到達目標	建築空間と人々の生活との対応関係を理解し、より良い生活空間のあり方について提案する能力を身に着ける。						
回	学習内容			回	学習内容		
1	ガイダンス			16	現地調査報告		
2	課題①出題（事例分析）			17	基本方針の設定		
3	課題①検討作業			18	全体発表・意見交換		
4	課題①提出・発表			19	エスキス・調査分析		
5	プレゼンツールの使い方（CAD）			20	エスキス・調査分析（修正）		
6	プレゼンツールの使い方（3D）			21	全体発表・意見交換		
7	プレゼンツールの使い方（パワポ）			22	図面・論文作成（全体構成）		
8	課題②出題（空間提案）			23	図面・論文作成（各部）		
9	課題②検討作業			24	全体発表・意見交換		
10	課題②提出・発表			25	図面・論文の作成（草案）		
11	研究テーマの構想			26	図面・論文の修正		
12	研究テーマの検討			27	図面・論文の完成		
13	参考文献・事例の収集			28	研究発表準備		
14	参考文献・事例の分析			29	研究発表練習		
15	現地調査の計画			30	研究成果の発表		
予習内容 復習内容	予習：その回の目標として示された事項に取り組む。 復習：指摘事項をふまえ、検討内容の改善を行う。						
教科書	教科書は使用しない。必要に応じて適宜指示する。						
成績評価	授業における取組姿勢及び報告内容（50%）、研究成果の内容（50%）により総合的に評価する。						
実務経験	一級建築士として建築設計事務所に勤務した経験を活かし、授業では実践的な計画・設計手法についても講義する。						
その他 特記事項	ゼミの時間は主に報告や議論にあてるため、時間外での自主的な取組みが必要である。設計やデザインに関心があり、「住生活設計Ⅰ」を履修していることが望ましい。						